

かすみがうら市のジオ食



梨

関東地方は梨王国

梨の生産量は、千葉県が全国1位、次いで茨城、栃木という順番です（農林水産省平成28年度統計資料より）。地続きの地域といえますが、それは偶然でなく、この地が気候・風土・地質が類似し、梨の栽培に適しているからです。

茨城は梨づくりに適した土地柄

梨の栽培には、地深で適度な保水性、排水性と肥沃な土地、通気性などが求められ、茨城県域はまさに梨づくりに適した土地柄といえます。7月上旬からハウス梨（辛水を皮切りに、豊水（甘味の中に適度な酸味がある）、あきづき（「新高×豊水」に「幸水」を掛け合わせたもので、酸味が少なめ）、恵水（大玉で甘みが強い新品種）、新高（日持ちがする大玉梨、にっこり（新高×豊水））と品種を変えながら10月末まで楽しめる果物です。

千代田の梨づくりの歴史

千代田の梨は、明治17年（1884）頃に下土田の山口徳松が始め、明治35年（1902）には下志筑地区や粟田地区にも広まってきました。県内では、旧関城町などの県西地区でいち早く始まった梨栽培ですが、千代田の梨は六号国道に展開する観光果樹が盛んになるにつれて茨城を代表する梨栽培地域となりました。

夏に適した梨の栄養成分と効能

梅雨が明けて夏日、猛暑日を記録する頃、梨の収穫が始まるのですが、この時期に梨を食べるのが体にも良いとされます。アミノ酸の一つであるアスパラギン酸が夏バテの疲労回復に、プロテアーゼがタンパク質を分解し消化を助け、汗と共に排出されるカリウムが補給でき高血圧を防ぐなど、梨は夏にさまざまな効能をもたらす食材といえます。皆さんもおいしいかすみがうら市の梨を食べ、夏を乗り切りましょう。



かすみがうら市の梨

東京の中央卸売市場1位のシェアを誇る茨城梨

46億年の地球の歴史を経て、つくり上げられた茨城、そしてかすみがうら市の大地。何気なく栽培されているようにみえる梨にも、この地域の大地の特性を利用して栽培されていることが分かります。茨城梨の生産量は、全国2位ですが市場出荷に目を向けると東京の中央卸売市場のシェアは全国1位です。この夏、梨をたくさん食べて、故郷の大地の恵みの豊かさを実感してみたいかがでしょうか。（桂木 郁夫）